着衣着火から
自分の身を守るために
～正しい対処法を身に付けましょう～

調理中のガスコンロの火や仏壇のろうそくの火が、自分が着ている洋服の袖口などについて燃え上がる現象を着衣着火といいます。

きちんとした対処法を知らないと火を消せないどころか、かえって火が大きくなってしまい、最悪の場合、大切な命を失うことも･･･。

そこで、着衣着火を防ぐポイントと、アメリカの消防士たちが考えて日本にも徐々に広まりつつある、万が一、着衣に火がついてしまった場合の対処法をご紹介します。

アメリカでは、子供のころから、『ストップ、ドロップ＆ロール』（止まって、倒れて、転がって）という合言葉をキーワードに、着衣着火への対処法を教育しています。

正しい対処法を学び、有事の際に備えましょう。

着衣着火を防ぐポイント

- ○　袖口や裾が広がった服で火を取り扱わない。
- ○　こんろ越しの作業をするときは、必ず火を消してから行う。
- ○　調理中は、ストールやスカーフなど火に近接する可能性があるものは外す。
- ○　こんろの奥に、物を置かず、こんろまわりを整理整頓する。
- ○　火が接しても着火しにくい防炎製品のアームカバーやエプロンを使用する。
- ○　鍋などの底から火がはみ出ないよう、適切な火力に調整する。
- ○　電気式の調理器具の使用を検討する。
- ○　お仏壇のお線香やろうそくを電池式に変更する。

防炎製品って何？

防炎製品は、火に接しても火がつきにくく、燃え広がるのを防ぎます。

防炎製品には寝具類、エプロン、アームカバーなどがあります。

防炎製品は、ホームセンター等で購入できます。

キューキューホワイト

もしも着衣に火がついてしまったら

自分が着ている洋服に火が燃え移ってしまった時には、
絶対に慌てて走ってはいけません。
走ると風が起こり、かえって火の勢いが大きくなります。
また、衣服についた火をはたいて消すことは困難です。
衣服を脱いだり、水をかけるなどして消火し、119 番通報してください。

近くに水がない場合は、
ストップ、ドロップ＆ロール（裏面参照）で対処しましょう。

レスキューオレンジ

着衣着火の対処法

～ストップ、ドロップ&ロール～

① ストップ（止まって）

火の勢いを大きくさせないために、
まずはその場に止まってください！！

② ドロップ（倒れて）

地面に倒れこみ、燃えているところを地面に押し付けるように、体と地面をくっつけます。
体と地面の間にできるだけ隙間ができないようにしてください！！

③ ロール（転がって）

地面に倒れたまま左右に転がります。
転がることで洋服についた火を窒息消火させます。
両手で顔を覆うようにして、
顔へのやけどを防ぎましょう！！

やけどをしてしまったら

○　ちょっとしたやけどのとき
　できるだけ早く水道水などの清潔な流水で十分に冷やしましょう。
　痛みが強い場合は、やけどをしたところに直接水圧がかからないように洗面器などで浸しましょう。

○　衣服を着ているとき
　衣服を着たままの状態でホースなどでゆっくりと水をかけましょう。
　※　衣服が皮膚にくっついているときは、無理に衣服を剥がさないで、そのまま冷やしましょう。

○　やけどが広範囲のとき
　水につけた清潔なシーツなどでやけど部分を包んで冷やしましょう。

○　冷やしたあとは
　感染を防ぐために、冷やしたあとは、清潔なガーゼで覆い、119 番通報しましょう。

ポンプレッド

盛岡地区広域消防組合消防本部
Morioka-Fire.Dept.